特集 #3

今に伝える　さつまの歴史。

さつまいろ
さつま町の歴史・文化に関するPR動画は**コチラ!**

宮之城島津家は、日新公のいろは歌で知られる島津忠良の三男尚久を初代とする島津家分家の一つです。1600年、2代忠長のときに宮之城領主になり、当初は虎居城を居城としました。宮之城島津家は島津家の分家の中で一所持ちという家格に属し、家老を多数排出しています。金山の発見や新田開発など藩の財政にも大きく貢献しました。

山崎郷御仮屋跡（山崎地区）

町南部の山崎地区は江戸時代の外城制度における「郷」の雰囲気が感じられます。山崎郷は藩の直轄地で、その御仮屋（役所のようなもの）の門が復元されています。山崎郷は、山崎、久富木、二渡、白男川、泊野の5村からなり、藩から任命された地頭によって治められました。実際の政治は山崎御仮屋で地元の郷士が行っていました。

宮之城島津家墓所（虎居地区）［国指定文化財］

国指定史跡「鹿児島島津家墓所」を構成する墓所の一つ。17世紀の初め頃に領主の島津忠長が菩提寺として宗功寺を建立。明治時代初めの廃仏毀釈により廃寺となりましたが、ここには宮之城島津家2代忠長をはじめ、33基の墓石が立ち並んでいます。幕府の儒官であった林春斎の銘文が刻まれた祖先世功碑もあります。

梅君ケ城跡（鶴田地区）

島津歳久の側室が住んでいたとされる城。豊臣秀吉が九州攻めの際に立ち寄ったともされています。

太閤陣跡（鶴田地区）

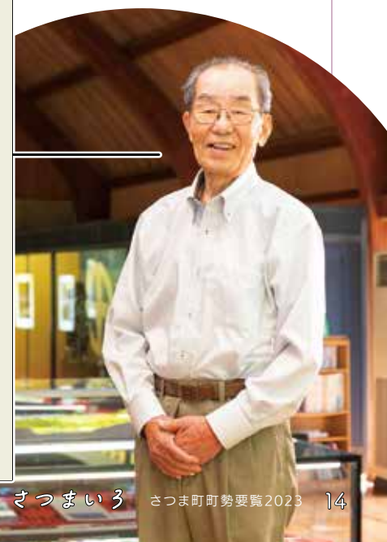
豊臣秀吉が陣を張ったとされる場所が鶴田にあります。島津義弘が秀吉に拝謁し、大隅国の所領を安堵された場所として伝わっています。

大石神社（中津川地区）

祁答院良重と島津歳久を祭神としています。秋の祭りは「金吾様踊り」として親しまれています。

郷土史研究会
会長　三浦（みうら） 哲郎（てつろう） さん

さつま町には、宗功寺や虎居城跡などの史跡、紫尾山にまつわる伝説などがありますが、このような歴史遺産の保存・活用のためには、地元に住んでいる方々にも、もっと興味を持ってもらえるような取組が必要だと思います。さつま町郷土史研究会では、歴史を伝えるための文献・映像作りやパンフレット作成を進めています。例えば、これまであまり知られていなかったけれども、夢を抱いて地元に貢献してくださった先人たちを紹介する「さつま町人物伝」を編さんしたり、宗功寺にある「祖先世功碑」に刻まれた漢文を、子どもたちでも読めるように書き下して出版する予定で、私も完成を楽しみにしています。



島津歳久とさつま町

島津歳久着用と伝えられる色々威胴丸兜大袖付
〔個人蔵〕黎明館寄託

島津歳久は島津貴久の三男で、兄の義久・義弘、弟の家久とともに戦国島津家の勢力拡大の中で活躍しました。天正８年（1580年）に祁答院（現在のさつま町を含む）領主となり、12年間にわたって治めました。豊臣秀吉との戦いでは最後まで抗戦を主張し、領内を通過する秀吉のかごに矢を射かけさせたという伝説も残っています。現在でも住民からは「金吾様（きんごさぁ）と呼ばれ親しまれていますが、これは歳久が名乗った官名「金吾左衛門督」からきています。

大石神社大祭時の奉納踊り

澁谷一族とさつま町

さつま町一帯はかつて「祁答院」と呼ばれ、古くは大前氏がこの地を治めていました。鎌倉時代には千葉氏が川薩地域一帯の郡司に任命されますが失脚し、その後は渋谷光重が領地を拝領します。光重は5人の息子に領地を分け与え、これが渋谷五族と呼ばれるようになりました。やがて祁答院を支配した一族は祁答院氏を名乗り、鶴田を支配した一族は鶴田氏を名乗ります。のちに鶴田氏は、他の渋谷一族と対立し、応永８年（1401年）の鶴田合戦に敗れて没落。鶴田も祁答院氏が支配します。その祁答院氏も、戦国時代に島津家に敗れて領地を奪われました。

虎居城跡
（宮之城屋地地区）

平安時代末頃に大前氏が築城。その後は、祁答院氏のほか、島津歳久や北郷時久も本拠地としました。「下之城」という別名もあり、これはのちに「宮之城」に改められました。

首塚（鶴田地区）

鶴田合戦の戦没者のために建立されたといわれている。県内最大規模の供養塔で、高さは3m以上。

さつま町の歴史を巡るなら

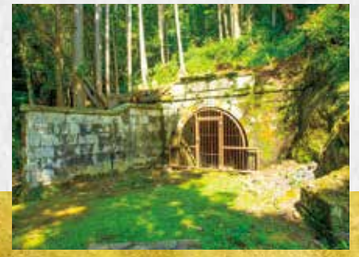
宮之城歴史資料センター

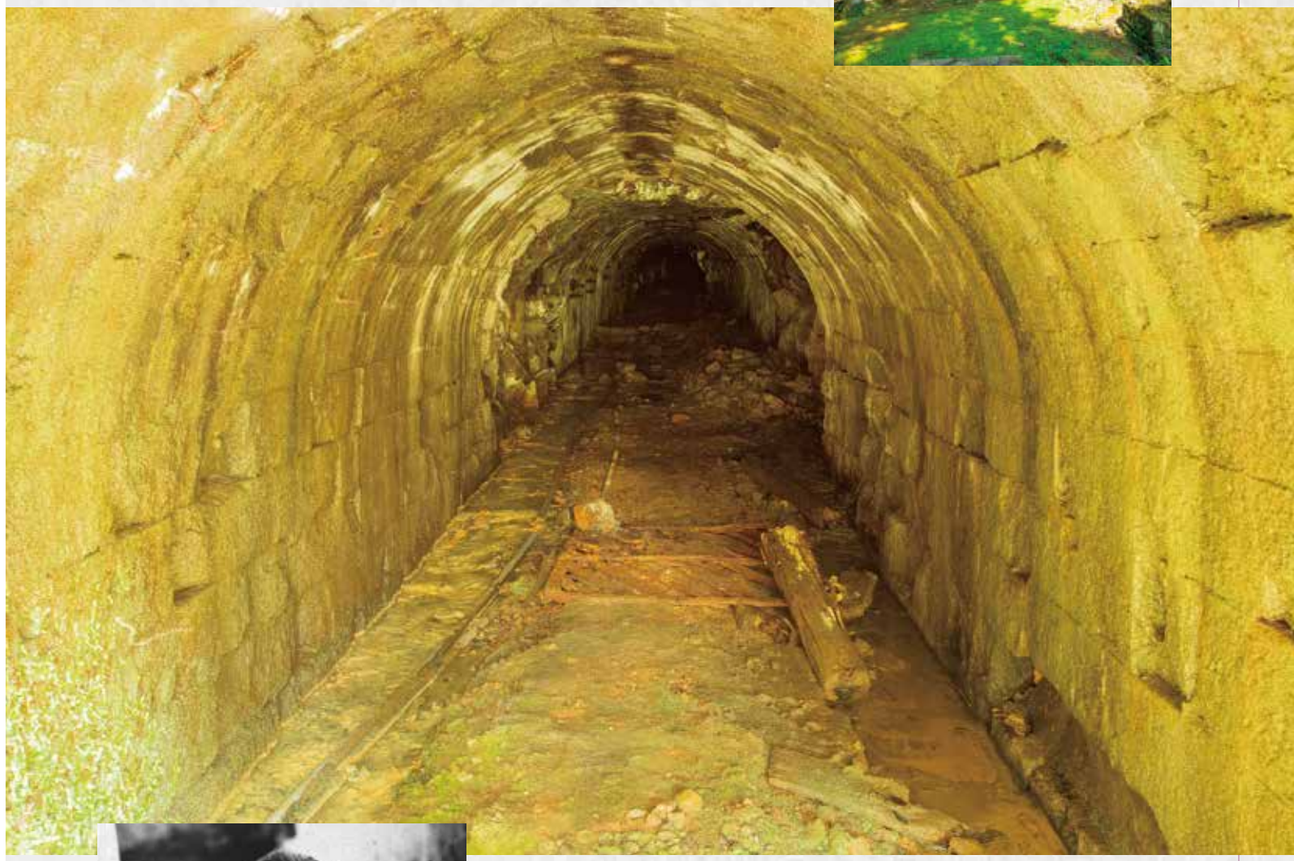
旧石器時代から近現代に至るまで町の歴史を網羅。時代を順に追ってわかりやすく紹介されています。『宮之城記』をはじめとする文書資料、宮之城島津家ゆかりの品といった貴重な資料を多数展示。

薩摩藩の財政を支えた黄金の里

1640年、宮之城島津家4代久通が領内で砂金を見つけたことから金山の探索を命じ、永野金山が発見されました。一時、産金量は佐渡金山をしのぎ、財政難だった薩摩藩の貴重な財源になったといいます。幕末には島津斉彬によって金山採掘の近代化が図られ、その事業は五代龍作や西郷菊次郎に受け継がれていきます。

永野金山跡（胡麻目坑口跡）





永野金山と西郷菊次郎

西郷菊次郎は、西郷隆盛と愛加那の子です。奄美大島から西郷本家に引き取られ、西南戦争にも従軍。負傷により投降したあとは政府に出仕し、台湾総督府勤務、宜蘭県知事や京都市長などを歴任。その後、明治45年から大正8年まで金山鉱業館長を務め、鉱山設備の近代化などに尽力しました。そして、自費を投じて夜学校や武道場を開設し、青少年教育にも力を注ぎました。

鉄橋跡